

令和5年度（春）宮崎大学公開講座

「源氏物語

～橋姫巻を読む～

集中講義予定

会場：まちなかキャンパス

「源氏物語 ～橋姫巻を読む～」とは、

今回から「宇治十帖編」に突入します。「宇治十帖」とは、『源氏物語』最後の十巻で、舞台がそれまでの京都から宇治へ移る(今では両方とも京都府ですが、昔の捉え方)ので、古来こう呼ばれます。「宇治」というと和歌では、「憂し」(＝つらい)と掛詞で使われ、また、現在でも平等院が残るように、「仏教の聖地」でもあります。すなわち「宇治十帖」のテーマを一言で言えば、「つらさ」を「仏教」で克服することはできるのか、ということになります。これが舞台を「宇治」に移した理由であり、学術用語で言うと「トポス」(＝土地がもつ力、イメージ)を利用したことになります。

しかしながら、『源氏物語』は恋物語ですので、「つらさ」というのは当然「恋のつらさ」となり、先ほどのテーマは、「愛と宗教との葛藤」と言い換えることも可能です。この橋姫巻はまさにその幕開けにふさわしい内容となっています。

この巻ではまず、源氏の生前には全く語られなかった弟・八宮が「俗聖」(ぞくひじり。僧と俗人の中間的存在)として登場し、薫はその八宮に仏教を学びに宇治へ行くようになります。ところが八宮には妙齡の姫君がいて、いつのまにか薫は恋に落ちるのです。

そしてその姫君こそが、巻名となった「橋姫」なのですが、伝承によれば「橋姫」は宇治川を司る女神で、その正体は昔「人身御供」として宇治川の治水のために捧げられた娘(今も昔も宇治川は流れが激しい川で、昔は頻繁に橋も流されました)とも言われます。するとこの姫君は今後「人身御供」となっていくのか。そのようなことを考えながら今回の講座を聴いていただければと思います。



講師：宮崎大学名誉教授
博士(文学) 山田 利博

	期 日	内 容
第1回	令和5年6月3日(土) (10:30-12:00)	宇治八宮登場
第2回	令和5年6月3日(土) (13:00-14:30)	薫、「俗聖」を学びに八宮を訪う
第3回	令和5年6月4日(日) (10:30-12:00)	薫、八宮の姫君たちを見る
第4回	令和5年6月4日(日) (13:00-14:30)	薫、弁から柏木の遺書を受け取る

◆受講方法

1. 5月26日(金)までに申込みフォームまたはお電話、E-mailにてお申込ください。

宮崎大学 学び・学生支援機構

受付時間：9:00～16:00(土日・祝日は除く)

電話：0985-58-7188 FAX：0985-58-7793

E-mail：m-chiiki@of.miyazaki-u.ac.jp

※申込時の情報は、公開講座に関する業務のみに利用され、
その他の目的には利用されません。



2. 受講申込(仮予約)がお済みの方は、銀行窓口で受講料を納入してください。

◆受講料：3,000円(全4回分・消費税込)

◆入金期日：5月26日(金)

◆振込先：宮崎銀行 清武支店 普通預金

口座番号：57863

受取人：国立大学法人宮崎大学 (ダイ)ミヤザキダイガク

電話番号：0985-58-7122

注) 銀行窓口で受講料を納めた際は、振込金受取書を必ず受け取ってください。
領収書になりますので、大切に保管してください。

申込後、大学にて振込確認を行い、受講者名簿に登録させていただきます。これで、受講決定となります。

※受講料について

- ① 受講料は銀行振込となります。当日の現金払いはお受けできません。
- ② 銀行振込の際には、振込手数料が必要となります。受講者の負担となりますのでご了承ください。
- ③ 受講料は返還できませんのでご注意ください。